

# 新しい東北に「復興過程で コミュニティをどう作るか」



13:45~15:00 イントロ・セッション

■ 登壇者 ■



**小林 郁雄 氏 (こばやし いくお)**

人と防災未来センター 上級研究員

1944年(昭19)名古屋生まれ。神戸大学卒・大阪市大大学院修了、(株)都市・計画・設計研究所、まちづくり株式会社コー・プランを経て現職。兵庫県立大学特任教授、阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク世話人、人と防災未来センター上級研究員、非認証NPOきんもくせい代表。地域計画、市街地整備から住民主体のまちづくりまで広い分野の都市プランナー。

**阿部 巧 氏 (あべ たくみ)**

公益社団法人中越防災安全推進機構  
ムラビト・デザインセンター センター長

2004年新潟県中越地震の際に、復興活動の中間支援組織「中越復興市民会議」の設立に参加。2008年より現職となり、復興支援・農山村の地域づくりに取り組む。また私生活では2013年に、復興支援で付き合いのあった長岡市川口地域(旧川口町)に住居を移し、川口の山・川遊びから地域資源を活かした生業づくりに取り組む「yamakawa\_sun」を立ち上げる。



**本多 史郎 氏 (ほんだ しろう)**

ファシリテーター (兼 登壇者)

公益財団法人トヨタ財団 プログラム・オフィサー

在フィリピン日本大使館専門調査員として、日本のポピュラー文化を用いての国際交流提言づくりに携わる。トヨタ財団ではミャンマーなどにおける「草の根古文書保全」の枠組みづくりなどに従事。現在は「復興公営住宅におけるコミュニティづくり」プログラムを担当し、東日本大震災被災地での取組をまとめた「原子力被災者、津波被災者、そして旧住民によるコミュニティづくりに向けて」を執筆(トヨタ財団広報誌ジョイント第18号)



16:45~18:00 来場者との対話型セッション

■ ファシリテーター ■

本多 史郎 氏 (公益財団法人トヨタ財団)

■ 登壇者 ■

小林 郁雄 氏 (人と防災未来センター)

東梅 英夫 氏 (白澤鹿子踊り保存会)

阿部 巧 氏 (公益社団法人中越防災安全機構)

小岩 秀太郎 氏 (公益社団法人全日本郷土芸能協会)

■ 取組発表団体 ■ ※順不同

岩手県釜石市、岩手県大船渡市、宮城県亘理町

岩手県久慈市・宮城県塩竈市・福島県郡山市 ←自治体版ハズオン支援 (※詳しくはステージで)

15:00-15:30 特別企画

# 「郷土芸能・祭りを通じたコミュニティ形成」

## 東梅 英夫 氏 (とうばいてるお)

臼澤鹿子踊保存会 会長

1945年岩手県大槌町生まれ。祖父や父が参画してきた地域の郷土芸能「臼澤鹿子踊」に幼少より参加。1999年に若手の有志に呼びかけ建設推進してきた臼澤鹿子踊伝承館が完成。

2011年3月11日の東日本大震災当日から伝承館を被災者避難所として開放。5月には伝承館の避難者を前に臼澤鹿子踊保存会の活動再開宣言。

2011年9月 第6代臼澤鹿子踊保存会会長を務める。

2012年4月 大槌町内の鹿子踊5団体で結成の「大槌鹿子踊」会長

2014年4月 どろのきプロジェクトを結成、ドロノキ植林活動推進中



## 小岩 秀太郎 氏 (こいわ しゅうたろう)

公益社団法人全日本郷土芸能協会 事務局次長

1977年岩手県一関市生まれ。

小学校から郷土芸能「行山流舞川鹿子躍」を踊り始める。進学のため地元を出ても鹿踊を忘れられず、郷土芸能のネットワーク組織、公益社団法人全日本郷土芸能協会（東京都）に入職。風土や人、くらしや食などが絡み合う郷土芸能の奥深さ、大切さを伝えるため、郷土芸能に関するレクチャーやワークショップ、企画・提案を行っている。東日本大震災発災後、被災芸能情報収集や支援、無形文化遺産情報ネットワークの立ち上げに携わる。

